



歴史と伝統を新たな時代へ 学科再編・共学・DX・単位制などによる学校改革

鹿児島市立鹿児島商業高等学校 校長 堀之内 尚郎

1. はじめに

本校は明治27年、薩摩藩の交易の中心地であった鹿児島市易居町に商業活動の担い手を育成すべく創立された「鹿児島簡易商業学校」を前身とし、これまで全国の公立商業高校では珍しい男子校として文武両道に積極的に取り組む学校として、地域からは「鹿商」の愛称で呼ばれている学校である。

一方で、近年では大幅で長期的な少子化の影響や私立高校の授業料無償化、通学バスの路線廃止や減便、寮や下宿の廃止、ジェンダーへの関心の高まり、高台に学校がある立地などの影響を受け、以前は2倍あった入試倍率は0.5倍にまで落ち込み、学校の存続すら危ぶまれる状況となっていた。

私が赴任した令和4年は、そのような負の要因が重なり、学校の魅力向上や活性化について抜本的な検討を行う必要が生じていた。

2. 学校改革をどのように進めるか

全国各地の高校にとっては、少子化や価値観の多様化、学校を取り巻く地理的な条件、地域産業などの要因が複雑に絡み合い、学校を経営する校長にとって学校活性化や生徒募集は年々難しさを増す課題となっている。

本校では抜本的な検討を進めるに当たり、その基本となる考えを「学習指導要領」や「生徒指導提要」などに求め、それらを愚直に形にすることとした。またこれからの時代を生きる生徒にとって必要な資質・能力とは何かをイメージしながら、できることから速やかに進めることとした。以下に本校の改革を進めるに当たって「学校のフレーム（学科や男子校）をどうするか」、また「教育活動をどのよ

うに魅力あるものにするか」の取組を紹介したい。

3. 魅力ある学びや男子校についての検討

着任した令和4年と以前勤務していた平成14年を比較すると、県内の中学校3年生の数は約7,000人減少し、高校はより選ばれる存在となっていた。学校のグランドデザインやそれらを具体化した教育活動が、生徒・保護者にとって魅力あるものになっているかなどを問われる時代となった。改革を進めるに当たり、本校の教育内容が今の時代にフィットしているのか、特色のアップデートが図られているのかに焦点を当て、検討を進めた。

学校の課題を認識しつつ新たなアイデアを募るため令和4年12月に「職員研修」を行うこととし、「学びの充実」「男女共学」「教育活動の魅力化」のテーマでグループワークを行った。職員から出された意見・アイデアはA4で5枚にもなった。

(1) 「学びの充実」についての主な意見

- ・進学に特化した学科を新設してはどうか。
- ・小学生からタブレットを持つ時代である。これまでの「情報処理科」ではなく、もっと深い学びができる学科の設置が必要ではないか。
- ・スポーツに特化した学科を作ってほしい。
- ・学科設置に当たっては、他校との差別化を図る視点も必要ではないか。
- ・地域との連携による学びも重要である。
- ・「商業科」と「情報処理科」では「情報処理科」の方が倍率は高い。
- ・他校の体育科の倍率は1倍以上あり、中学生のニーズはある。
- ・学科名については、県内外の例を参考に中学生が

イメージしやすく、分かりやすい名称とした方がよい。できるだけ他校の学科名と重複しないよう工夫すべきである。

- ・様々なことにスピード感を持って取り組むことが必要である。

(2) 「男女共学」についての主な意見

- ・男女関係なく、多様な才能や能力を持った生徒が集まりやすい方が、深い学びや学校活性化につながるのではないか。

(3) 「教育活動の魅力化」についての主な意見

- ・制服や校則を見直し自由度をあげてほしい。古臭いイメージの脱却。制服は男女で分けずに選択制にして自由度を高めてはどうか。
- ・他校とのスポーツ交歓会を実施してはどうか。
- ・eスポーツを授業などに取り入れてはどうか。
- ・留学生の受入や国際交流を実施してはどうか。
- ・海外修学旅行や学科ごとの修学旅行を実施してはどうか。
- ・ダンス、スケボー、BMX、フリースタイルバスケ、パルクール、クライミングなどオリンピックや国スポ種目の部活動を導入してはどうか。
- ・県外からの生徒募集を行ってはどうか。そのためには寮が必要である。
- ・人工芝のグラウンドを整備したら生徒が集まるのではないか。

4. 校長自らの学校分析

SWOT分析を用いて校長としての分析も行った。

Strength (内的強み)

130年の歴史と伝統、元気活気、部活動が盛ん、探究学習、就職3年後の離職率14%、地元への就職や進学約7割など

Weakness (内的弱み)

時代に合った教育、難関大学への進学、部活動の実績、パンカラで厳しいイメージ、施設設備の老朽化、学校の設置場所など

Opportunity (外的強み・機会)

熱心な同窓会、多額の寄附、市長の教育への思い(DX,ICT)、県内にOB社長1,500人、中日ドラゴンズ井上一樹(OB)監督就任など

Threat (外的弱み・脅威)

大幅で長期的な少子化、バスの路線廃止・減便、私立高校の授業料無償化、ジェンダーへの関心の高まり、寮や下宿の廃止など

5. 「学びたい学びがあり、進路目標を達成でき、充実した学校生活を送れる学校」の実現

私は本校に赴任する前、県教委で勤務し、令和3年度事業として11人の有識者などからなる「魅力ある県立高校づくり懇話会」を立ち上げ、1年かけて議論していただいた経験がある。その「とりまとめ」には、魅力ある高校を「学びたい学びがあり、進路目標を達成でき、充実した学校生活を送れる学校」と定義している。

この定義を何とか形にできないかと考え具体について検討することにした。

(1) 「充実した学校生活を送れる学校」とは

「充実した」とは、生徒がやらされるのではなく、主体的・能動的に活動できる環境ではないかと考え、生徒の主体性を生かしながら自ら考え判断する機会をできるだけ多く作ることにした。

(ア) 「生徒心得」を見直し、「ビジネスシーン」を意識しながら自ら考えて判断する校則に変更。

(イ) 制服を見直し男女を問わずに自由に選択。

(ウ) 生徒会要望の「アイスクリーム」自動販売機の導入や学食メニュー、菓子パンの種類を増やすなど学校としての憩いの場づくりを推進。

(エ) RIZAP「体づくり教室」、亀田和毅氏、斎藤佑樹氏、大相撲OB力士たち、OBプロボクサー大久祐哉氏、県内インフルエンサーの講演・特別授業など、専門家による学びの機会を拡充。講演は講師の一方的な話とならないよう生徒とのやり取りを中心としたトークショー形式ですべて実施。事前質問は常時100を超え当日も10数名の生徒が手を挙げて質問する姿が見られ質問力も向上してきている。

(オ) ウクライナ、タイ、中国との国際交流を行い、多様な価値観を有する同世代の若者との交流を促進。

(2) 「学びたい学びがある学校」とは

- (ア) 平成5年度に設置した商業科、情報処理科、国際経済科の学びを見直し、魅力ある学科を検討する。
- (イ) 魅力ある教育課程を編成する。学習指導要領に示されている「探究学習の充実」を踏まえ、「課題研究」を教育課程の中心に位置づけるとともに進路希望に応じた選択科目の配置、「情報Ⅰ、Ⅱ」の開設、起業家やIT人材、全国大会・九州大会などで活躍するトップアスリートの育成など、学科の特徴が分かりやすく、これまで以上に専門的な内容が学べる学科、教育課程を検討する。
- (ウ) 大学、専門学校、企業、自治体、小中学校などと連携した学びやフィールドワークを取り入れるとともに、大学・企業・自治体からや小中学校への出前授業などを取り入れた学びを検討する。
- (エ) ICT機器やAIを積極的に活用した授業へ転換。

(3) 「進路目標を達成できる学校」とは

進路については、生徒自らが目標を定め切磋琢磨しながらその達成に向けて努力するものではあるが、学校として情報提供や学びの質の向上などは取り組むべきものである。それらの手立てとして、

- (ア) これまで3年次の4月に配布していた「進路の手引き」の内容を進学や就職について細やかに記述した内容に刷新し、1年次から3年次まで全ての生徒に配布。進路意識の高揚を図った。
- (イ) 大学進学を目指している生徒を対象にした「小論文指導」を1年次から実施。
- (ウ) 教えるから学ぶへの授業転換、ICTの活用
- (エ) これまでは、経済学部、経営学部、商学部などへの進学が中心であったが、これらに加え、情報、体育、女子大学などへの進学が見込まれることから、新たな進学先を確保するため、関東、関西、福岡及び地元の大学、計35校を校長が直接訪問。

6. 「活性化案」の実現に向けて

校長としての分析や校内での検討、県教委のとりまとめなどを基に学校としての「活性化案」を作成し、学校設置者である鹿児島市教育委員会が設置する「市立高等学校活性化委員会」に提案した。

- (ア) 「学びの充実」については、これまでの「商業科・情報処理科・国際経済科」は平成5年度に設置されたものであり、現行の「学習指導要領」の内容に即した学科に変更する。高校入試の状況などから、「商業科」は4から3学級へ、「情報処理科」は2から3学級へと変更する。また、入試倍率が低迷している「国際経済科」の学びは他学科の教育課程に反映させた。

| | | |
|-----------|------------------|----------------|
| 【学科再編・共学】 | 令和6年度入学生から | |
| 商業科 (4) | } ビジネスクリエイト科 (3) | |
| 情報処理科 (2) | | 情報イノベーション科 (3) |
| 国際経済科 (1) | | アスリートスポーツ科 (1) |

- (イ) 「男女共学」については、多様な才能や能力を有する人材が集まり、学校をより活性化させるため「共学」とする。
- (ウ) 「教育活動の魅力化」については、令和4年12月に改訂された「生徒指導提要」に基づいて、関係者から意見を聴取し、ビジネスシーンを意識した校則へと変更、自由度を高めるものとした。また、スポーツ交歓会やeスポーツ、国際交流の機会、海外修学旅行などの学校行事を導入し、地域と連携した学びや女子寮の整備なども行った。

7. DX・AIなどに積極的に取り組む学校

令和6年度入学生より実施した「学科再編」「共学」に合わせて、これからの社会で活躍できる人材としての実践力や地方創生を高める取組として、「リーディングDXスクール事業」「DXハイスクール事業」「生成AIパイロット校」指定への申請を行い、文部科学省大臣官房学習基盤審議官の視察や市教委からのご指導をいただきながら、積極的にDX・AIに取り組む学校として新たなチャレンジを開始することとした。

令和6年度は、ハイスペックPCやドローン、小型ロボット、VRゴーグル、ゲーミングマシーン、高速Wi-Fiの整備を行うとともに12月には公開授業を行った。県内外の普通科、工業科、行政機関、企業、私立高校などの参加を得て、AIを活用した「観光ルートの開発」、「体育」でドローンとタブレットを用いて「バレーボール」のフォーメーションを確認する授業などを行った。また、令和7年度は、動作解析AIを用いて部活動でのフォーム修正への活用、交差点での人口動態をデータ解析したマーケティング戦略などビジネスへの活用についての授業、書道においてAIの手本と生徒の書を比較・分析するアプリの開発、アスリートの試合前の献立づくりなどを行った。これらの取組について県外の教育委員会や高校の視察をいただきながらAIに取り組む学校同士のネットワークづくりを進めている。今後も情報教育に積極的に取り組む学校として、「DXハイスクール事業」「リーディングDXスクール事業」「AIパイロット校」指定で得られた知見を多くの学校などと共有しながら、生徒の学ぶ意欲の向上や教員の資質向上など教育活動への活用を図っていききたい。

8. 単位制の導入

「学習指導要領」に示されている個別最適な学びの実現、基礎学力の向上などを図るため、また大学進学を目指した選択科目の充実、少人数指導や習熟度別授業などの、さめ細やかな指導体制の構築を目

指した教育課程編成のため、令和9年度からの「単位制」の導入を検討している。「英語」「国語」「数学」と「商業」の学年を越えた科目選択の充実により学びを個別最適化し、カリキュラムマネジメントを回すことで、生徒の資質・能力のさらなる向上を図っていききたいと考えている。

9. 改革進行中の令和6・7年度の高校入試の結果

2年間の入試では、これまでの0.5倍を大きく上回る倍率となった。入学後の生徒アンケートでは、「学科・学びが魅力」が6割を占め、次いで資格取得、部活動、制服が本校を選択した理由となっている。

学びの特徴としては、「課題研究」を2年生で4単位、3年生で4単位の計8単位設定し、以下のコースから選択できることが魅力となっている。

情報イノベーション科 課題研究7つの学び

| | |
|---------------------|--|
| システムエンジニアコース | 情報に関する専門知識の習得及び資格取得など |
| メタバース・AIチャレンジコース | AIプログラム制作、AI活用コンテストへのエントリー、ChatGPT活用、マーケティングなど |
| メディア戦略コース | SNSマーケティング・分析調査、動画制作など |
| 映像コンテンツデザインコース | 映像、アニメ、映画、サウンド、CMのコンテンツ制作など |
| CGコンテンツデザインコース | CG、イラスト、キャラクター、Web、広告の制作など |
| eスポーツ・ゲームプログラミングコース | ゲームプログラムの基礎、オリジナルゲーム制作、eスポーツ国体出場、福祉施設訪問など |
| ICTスキル・地域シェアリングコース | 小学校へのプログラム出前授業、地域貢献活動など |

<令和6年度入学生>

| 学 科 | 募集定員 | 推薦定員 | 推薦出願 | 男 | 女 | 倍率 | 一般 | 一般 | 男 | 女 | 倍率 | 一般 | 男 | 女 | 女子割合 | 倍率 |
|-------------|------|------|------|----|---|------|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|----|-------|------|
| | | | | | | | 定員 | 出願 | | | | 変更後 | | | | |
| ビジネススクリエイト科 | 120 | 48 | 17 | 16 | 1 | 0.35 | 103 | 162 | 86 | 77 | 1.57 | 125 | 65 | 60 | 48.0% | 1.21 |
| 情報イノベーション科 | 120 | 48 | 17 | 16 | 1 | 0.35 | 103 | 152 | 123 | 29 | 1.48 | 126 | 103 | 23 | 18.3% | 1.22 |
| アスリートスポーツ科 | 40 | 28 | 19 | 19 | 0 | 0.68 | 21 | 24 | 23 | 1 | 1.14 | 26 | 25 | 1 | 3.8% | 1.24 |
| 計 | 280 | 124 | 53 | 51 | 2 | 0.43 | 227 | 338 | 232 | 107 | 1.49 | 277 | 193 | 84 | 30.3% | 1.22 |

<令和7年度入学生> 「自己推薦」を導入

| 学 科 | 募集定員 | 推薦定員 | 推薦出願 | 男 | 女 | 倍率 | 一般 | 一般 | 男 | 女 | 倍率 | 一般 | 男 | 女 | 女子割合 | 倍率 |
|-------------|------|------|------|----|----|------|-----|-----|-----|----|------|-----|-----|----|-------|------|
| | | | | | | | 定員 | 出願 | | | | 変更後 | | | | |
| ビジネススクリエイト科 | 120 | 48 | 39 | 21 | 18 | 0.81 | 84 | 114 | 54 | 60 | 1.36 | 109 | 55 | 54 | 49.5% | 1.30 |
| 情報イノベーション科 | 120 | 48 | 44 | 37 | 7 | 0.92 | 74 | 132 | 95 | 37 | 1.78 | 119 | 86 | 33 | 27.7% | 1.61 |
| アスリートスポーツ科 | 40 | 32 | 36 | 30 | 6 | 1.13 | 8 | 2 | 2 | 0 | 0.25 | 3 | 3 | 0 | 0.0% | 0.38 |
| 計 | 280 | 128 | 119 | 88 | 31 | 0.93 | 166 | 248 | 151 | 97 | 1.49 | 231 | 144 | 87 | 37.7% | 1.39 |

ビジネスクリエイト科 課題研究7つの学び

| | |
|-------------------|--|
| 企業マネジメントコース | ビジネスに関する専門知識の習得及び 上級資格取得 |
| グローバル・クリエイトコース | 英語・韓国語・中国語やグローバル経済についての学習 |
| 観光ビジネスコース | 観光資源の調査研究、観光プランの研究開発、全国高校生観光プランコンテストへのエントリー |
| 地域創造プログラムコース | 地域課題の解決や商品開発による活性化などの探究学習 |
| 企業戦略コース | 企業と連携し課題解決学習、CM動画作成、情報戦略等の探究学習 |
| ビジネスにおけるSDGs探究コース | 業務や商品開発等におけるSDGs推進の探究学習 |
| ショップ定員体験コース | 企業と連携し就業体験を多く取り入れ、 ビジネスマナーやコミュニケーション能力を育成 |

現在、鹿児島経済同友会の加盟企業や鹿児島市役所、鹿児島女子短期大学、第一工科大学、鹿屋体育大学、専門学校など20ほどの企業・団体と連携して授業やフィールドワーク、商品開発、イベント企画などを行っている。今後も最新技術や新たなビジネスの創造など、さらに学びを拡充する予定である。

10. 職員の働き方への取組

学校改革イコール職員の多忙化につながるものが懸念される。職員の働き方についても以下のような取組を行い、長時間勤務の解消を図ってきた。

- ・1年生への2人担任制の導入
- ・得意な分野（校務）を担当
- ・部活動の複数顧問制
- ・留守番電話の導入や校外補導の廃止
- ・校内委員会を法で定めるもの以外廃止
- ・自動採点システムの導入
- ・SNSや盗難などのトラブルは全て警察へ
- ・文書作成など生成AIの校務への活用
- ・SC、SSW、スクールロイヤーの積極的な活用
- ・コミュニティースクールの導入
- ・大学、企業、専門学校、自治体などと連携し、専門的な出前授業を実施

【時間外在校時間の推移～月ごとの年平均～】
 令和4年度…35.7時間 令和5年度…31.3時間
 令和6年度…23.2時間 令和7年度…21.5時間
 （令和7年度は8月まで）

11. まとめ

令和4年度に検討をはじめた学校改革については、設置者である鹿児島市教育委員会をはじめ、同窓会、PTA、職員など、多くの皆様方のご支援・ご協力を得て前に進めることができています。

改革を大きく3つに分け、まずは生徒が主体的に活動できる環境づくりを進め、興味のある様々なことに自らチャレンジできる雰囲気づくりに努めた。また学びの充実については、学科を再編し、経営や起業のほかIT、DXについての専門的な学び、探究学習や外部との連携、部活動の推進などにより、実社会で即戦力となる人材や社会でリーダーシップを発揮できる人材の育成に努めてきたところである。

さらに生徒の進路希望を実現できるよう、大学を訪問し「大学指定校推薦」の充実に努めてきた。今後は単位制導入により選択科目の充実を図り大学進学への学びを充実させることなどを進めていきたい。

あわせて老朽化した施設の整備などが喫緊の課題である。これらの課題に丁寧に取り組み、歴史と伝統を有する本校の魅力をさらに高め、これからの変化の激しい世の中を逞しく生き抜いていける人材の育成に努めていきたいと考えている。

学校創立以来つないできた本校の教育は、精神と肉体の融合をめざした人づくりにある。これまで卒業生が取り組んできた文武両道が伝統となり、何事にもへこたれない強い精神力を育み、経済界や各界に有為な人材を送り出してきた。時代の先を見つめつつ、新しいものを積極的に取り入れる精神が伝統・校風へとつながり、今の鹿商を築いている。学校改革は丁寧かつより具体的な現状分析と、それらの課題へのスピード感を持った対応、勤務校に対する職員の熱量が成功の鍵となる。職員がどれだけ進取の気風を意識するか、意識のアップデートを図るかが重要となる。

「鹿商改革」はまだ緒に就いたばかりである。今後も皆様方のご支援・ご協力を賜りながら、生徒、職員さらなる高みを目指して「挑戦」を続けていきたい。